

# 災害に備えて

危機管理課危機管理係  
☎0824・73・1206



ゲリラ豪雨や地震などの災害は、いつ発生するかわかりません。日頃から非常持ち出し品の準備や、避難場所・避難のタイミングを家族や地域で確認しておきましょう。



## 5月から防 災気象情報が新しくなります

現在、市町村が発令する避難指示などの避難情報と、気象庁などが発表する防災気象情報は、住民が取るべき行動を直感的に理解しやすいよう、5段階の「警戒レベル」を用いています。

しかし、「大雨警報」や「土砂災害警戒情報」といった防災気象情報と、5段階の警戒レベルの関係が複雑で分かりにくいいため、5月29日(金)から、シンプルで分かりやすい表現の防災気象情報に変更されます。

新しい防災気象情報では、「警報」や「注意報」の前に「レベルの数字」が付けられることで、災害発生の危険度に応じて住民が取るべき行動に対応した「5段階の警戒レベル」との整合が図られます。

## 新たな防災気象情報

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

### ポイント1 「レベル」の付記

警報・注意報の情報名に「レベル」が付記されることで、避難行動と直結するレベルがすぐ分かり、避難判断の目安が明確になります。

**【変更点】**  
(旧)「大雨警報」→ (新)「**レベル3大雨警報**」

### ポイント2 「危険警報」の発表

「警戒レベル4相当(危険な場所にいる人は全員避難)」の情報は「**危険警報**」として発表されます。

**【変更点】**  
(旧)「土砂災害警戒情報」→ (新)「**レベル4土砂災害危険警報**」

### ポイント3 「気象防災速報」の発表

せんじょうこうすいたい  
線状降水帯の発生など極端な現象は、新たに「**気象防災速報**」として発表されます。

**【変更点】**  
(旧) 顕著な大雨に関する気象情報→ (新)「**気象防災速報(線状降水帯発生)**」

### ポイント4 河川氾濫の危険度の伝え方

従来の「洪水警報」「洪水注意報」が廃止され、河川の区分に応じた伝え方になります。

**【変更点】**  
(旧)「洪水警報」→ (新)洪水予報河川の場合…「**レベル3氾濫警報**」※  
(新)洪水予報河川以外の河川の場合…「**レベル3大雨警報**」

※市内には洪水予報河川が存在しないため、本市における河川氾濫の危険度は、「**大雨**」の防災気象情報で発表されます。

## 災害から命を守るための取り組み

災害から命を守るためには、自宅や日頃よく行く場所が、河川の氾濫や土砂災害などの危険性がある場所かどうかを事前に知っておき、気象状況を注視しながら、市が発令する避難情報や自らの判断により危険な場所から安全な場所へ避難することが重要です。

**①知る**  
自分の住んでいるところ、職場などの災害リスクや、近くの避難所などを確認する

▼庄原市マップ  
防災マップを掲載しています



**②察知する**  
気象情報などの情報を集めて危険性をいち早く察知する

▼気象庁ホームページ  
各種気象情報が確認できます



**③行動する**  
市から避難情報が発令されたときまたは、自ら必要と判断したときは、安全な場所へ避難する

▼広島県防災WEB  
避難所の開設状況・混雑状況が確認できます



## 避難のタイミングは警戒レベルで判断

「災害発生のリスクの高まり」と「住民が取るべき行動」を示す警戒レベルに応じて的確な避難行動を取りましょう。

災害時に落ち着いて行動できるよう、平時から避難場所や避難経路などの確認をするとともに、災害発生のリスクが高まり、市町村から避難情報が発令された場合、**危険な場所にいる人は、警戒レベル4(避難指示)**までに、必ず安全な場所に避難しましょう。



## 地震への備え

今後30年以内に60〜90%程度の確率で発生すると予想されている「南海トラフ巨大地震」。

令和7年3月に政府が公表した被害想定では、庄原市は最大で震度5弱の揺れが発生すると想定されています。

地震はいつどこで発生するか分かりません。

水や非常食などの備蓄や家具の転倒防止対策、住宅の耐震化など、日頃から備えることで被害を最小限に抑えることができます。

## 非常持ち出し品・備蓄チェックリスト(一例)

- 飲料水(3リットル×最低3日分)  
※できれば1週間分
- 食料(人数×最低3日分)  
※できれば1週間分
- 簡易トイレ  懐中電灯
- ラジオ  軍手  ポリ袋
- 救急箱・常備薬  下着・靴下・衣類
- 防寒着・毛布・アルミシート
- 衛生・感染症対策用品
- ティッシュ・タオル
- 歯ブラシ
- モバイルバッテリー
- 現金(小銭)



その他、家族構成や世帯事情に応じて、追加で必要なものを備えましょう。

